

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体名の場合は代表者名も記入)
溝口 彰子 (代表者名:)
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
研究発表「なぜヤオイ／ボーイズラブはファリックな女性『父親』を生産できるのか?～寿たらこの『Sex Pistols』」を第3回メカデミア学会で行い、フィードバックを得ることにより、書籍プロジェクトの新規最終章の内容を固める。
3. 助成額
80,000 円
4. 実施期間
2012 年 11 月 29 日 ~ 2012 年 12 月 3 日
5. 実施状況
2012 年 11 月 29 日～12 月 2 日「メカデミア・イン・ソウル・カンファレンス」に参加 * 12 月 1 日 14:00-16:00 パネル内にて、上記タイトルの研究発表を行った。 パネル・タイトル「ロマンス、生殖、そして快樂:近年の少女マンガとヤオイ／ボーイズラブ作品から」 コ・パネリスト:堀ひかり氏、キム・ヒョジン氏
6. 事業成果と自己評価
「ファリックな女性『父親』」を提示しながら、BL 愛好家に好まれる表象となりえている理由として、「現実」を表象するのではなく、効果的に他のジャンルからの引用といえる表現が採用されていることをジャンル論を用いて論じることができた。また、質疑応答およびパネル後の非公式の対話を通じ、マンガやアニメの研究者たちからのフィードバックを得て、自論の切り口の有効性を確認すると同時に、さらに議論を詰めるためのヒントや、文脈の示し方を学んだ。韓国で開催された英語圏の日本ポピュラーカルチャーについてのジャーナルの学会であったため、英語ネイティブの研究者のみならず、日本の研究者や韓国の研究者、評論家、実作者も参加していたことで、とくに刺激を受けた。 この成果をふまえて練り直した新章を含めた書籍プロジェクトを現在、進行している。